ば、眞の意味に於ける政治斗爭の指導遂行は様々の經濟斗爭のそれより
は、遙かに困難なものであつて、明確なる目的意識と總員の規律ある行
動とを絶対に必要とするものであるから。
(三) したがつて、戰斗的労農政党の組織は、莫然と、労働者と農民と無
産市民とを加へた尨大なる大衆団体――さうした組織は、必然に労働組
合や農民組合の組織よりもつとルーズなものになる――として組織された
ものであつては絶対にならない。
(未) さうした組織は、イギリスの労働党のやうに逆挙や試会斗爭だけを
政治斗爭と考へ、それの遂行に全努力を傾けてゐるところの、社会民主
々義政党の組織である。
(へ) なるほど、さうしたルーズな組織でも、逆挙や街頭宣傳のためには
、たしかに役立つ。だが、さうしたルーズな組織では、我々の敢行しよ
うとするやうな大衆的政治斗爭のためには殆んど役立たない。たとへ我
々が、『党員何十万』と号して見たところで、現実の大衆斗爭にその党
員の何百分の一をすら動員し得ないやうであつたら、そんな党が我々に
とつて何の役に立つか！ 今後我々の斗爭がもつと激化し、より高度の
ものになつて来れば、さうしたルーズな組織をもつてしては、たつた百
人の大衆をすら動員し得なくなるであらう。
(下) 我々の党は、たとへ何百人乃至何千人の比較的少数の党員によつて
構成されたものであつても、何万人何十万人の動員力を持つたものでな
ければならない。
(子) もし我々の党が、莫然たる方針の下に、未組織大衆を直接党へ組織
するやうな組織を続けるならば、それらの大衆は、党が、それらの人々
の日常經濟利害のために直接斗ふための組織であるかの如く考へ、又
トライキや小作爭試の指導を持ち込んで来るやうになる、そして党が直
接ストライキを指導したり、党の『農村対策委員会』が、そのまゝ組合
と同じやうな役割をつとめたりするやうになる。
(リ) だが、さうなると、党と組合とが、同じ様な機能を持つたものにな
り、党の組織と組合の組織とが全く二重組織になつてアつて、組合の拡
大強化のために党は決して役立たないものになる。たとへば、従来我々
は、党の演説会を開催した場合は、『全無産大衆は労農党に入
れ！』といふスローガンを叫び、入党案内を配布する、といふやうな方
針を取つて来た。だが、これは断じて誤りである。我々は、当然、我々
の演説会に於て、『すべての労働者は總評試会に入れ！』『すべての農民
は農民組合へ入れ！』のスローガンを叫び、組合の加入申込書を大衆に
配布すべきである。
(又) 『すべての未組織大衆を組合へ！』『すべての優秀なる組合員 党
へ！』それが我々の根本的組織方針でなければならない。